

# 「短命国返上」ヒント探る

中路特任教授④のガイドを受け、QOL健診を体験するフィジー政府職員ら



フィジー職員 弘大でQOL健診

フィジー政府の保健医療サービス省職員ら十数人が22日から3日間の日程で弘前大学を訪れ、健康意識を高める健診プログラム「QOL健診」（啓発型健診）について学んでいる。23日には健診の現場を見学し、

いくつかの検査も体験。平均寿命が60代後半で世界平均を下回っていることから「短命国」返上に向けたヒントを探った。  
オーストラリアの東側にある群島国家フィジーは、成人の7割が肥満とされ、

生活習慣病の増加や働き盛りの突然死などが社会問題になっているという。

23日に大学内で行われた健診現場の見学では、弘前大の中路重之特任教授から説明を受け、歩幅を測る「2ステップテスト」や脚力を測る「立ち上がりテスト」に挑戦。健診スタッフから「頑張れ！」とエールを送られたり、テストのクリア後に拍手を受けたりしながら検査を楽しんだ。

同省職員で医師のナラヤン・アケシュさんは「健康づくりには自分の健康状態を知るのが大切。帰国後、QOL健診の全項目を実施してみたい」と話していた。中路特任教授は「フィジーは本県より短命だが（健康への道のりは）どちらもう一緒。健康づくりは楽しくやれるということを伝えたい」と語った。（赤田和俊）